

貿易の拠点としての唐津港

古くから海上交通の拠点であった唐津は、江戸時代後期、石炭の積出港として松浦川河口部に開港したのを機に、本格的な貿易港としての歴史を刻み始める。

1882年（明治15年）に当時満島にあった唐津港で唐津炭田の石炭輸出を開始。1889年（明治22年）には特別輸出港に指定され、同時に長崎税関唐津出張所が設置された（3年後に税関支署に昇格、戦後降格し門司税関に移管※「32年4月、唐津税関支署が設置された。」との記述も）。

さらに唐津鉄道の開通により、以後満島の貿易機能は順次西唐津・大島へ移転し、現在に至る港湾地帯を形成した。貿易額は日を追う毎に増大していった。当時の外国船の入港は、横浜、神戸、大阪、門司について唐津は第5位に上り、長崎、函館を上回ったとされる。そして大正8年には貿易総額1,057万1,229円と、1,000万円を突破することとなり、もはや国内屈指の貿易港となっていた。翌9年4月には開港30周年記念を兼ね、貿易額1,000万円突破の大祝賀会が、唐津、佐志、満島、唐津の1町3カ村を中心に東松浦郡各村をはじめ各炭坑の支援の下、盛大に挙行された。今日まで、これを凌ぐ祝賀行事は唐津ではないと目される。

しかし、第一次世界大戦の影響で外資関係が先細りとなり、1920年頃をピークに貿易額は減退し、昭和初期には石炭不況や第二次大戦の影響でさらに衰退していった。

現在ではLPGガスや建築資材、海砂などの物流基地や、水産基地としての側面が強いが、佐賀県には大型客船が寄港できる港がほとんど無いため、クルーズ船の寄港地や旅客フェリーの就航地として、佐賀県の海の玄関口の役割も果たしている。

分野 産業

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



大正時代中ごろ、
石炭船でにぎわう唐津港。

（『ふるさとの想い出写真集・唐津』
松浦文化連盟編より）

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html